

入賞者一覧

《特別賞 北海道教育委員会教育長賞》	札幌市立新川西中学校	2年	佐藤	奈央	札幌市立宮の丘中学校	2年	伊藤	咲耶	札幌市立札幌北小学校	6年	部田	梨華
《特別賞 北海道立文学館賞》	蘭越町立蘭越小学校	4年	浜田	恵伍	市立札幌開成中等教育学校	3年	神谷	瞭介	札幌市立澄川南小学校	6年	伊藤	聡美
《特別賞 北海道新聞社賞》	北海道釧路湖陵高等学校(定時制)	3年	沖口	哉音	苫小牧市立明野中学校	3年	三浦	星	札幌市立西野第二小学校	6年	山内	楷斗
《優秀賞》	石狩市立緑苑台小学校	2年	石坂	友絆	北嶺中学校	1年	川村	煌	札幌市立ひばりが丘小学校	6年	中田	陽色
	札幌市立有明小学校	3年	武井	咲八果	旭川実業高等学校	1年	田中	優月	札幌市立伏古小学校	5年	吉原	悠吾
	岩見沢市立日の出小学校	4年	長沢	惇生	帯広北高等学校	3年	前山	仁	札幌市立元町小学校	6年	和久井	莉子
	札幌市立美しが丘緑小学校	5年	江口	紘生	北海道小樽水産高等学校	1年	宮腰	葵	苫小牧市立清水小学校	4年	川崎	嵩仁
	札幌市立平岡緑中学校	3年	土島	彩愛	北海道倶知安農業高等学校	3年	横山	颯大	中標津町立中標津東小学校	4年	横山	にこ
	北海道教育大学附属札幌中学校	2年	関井	悠良	北広島市立東部小学校	3年	多門	花佳	広尾町立広尾小学校	5年	藤原	好花
	帯広北高等学校	3年	林	紗葉	札幌市立幌北小学校	1年	田中	歩	北斗市立上磯小学校	5年	佐藤	暁
	北海道小樽水産高等学校	2年	木下	颯	札幌市立新札幌わかば小学校	3年	日野	田響香	厚真町立厚南中学校	2年	鈴木	ゆうら
《佳作》	札幌市立新琴似小学校	3年	青山	湊	札幌市立日新小学校	2年	今野	泰地	石狩市立樽川中学校	2年	福島	美月
	札幌市立中央小学校	2年	橋本	作	札幌市立白楊小学校	1年	駒井	翔太	恵庭市立恵み野中学校	2年	西村	日向
	北海道教育大学附属札幌小学校	2年	板垣	珠実	札幌市立八軒北小学校	3年	品野	由衣	帯広市立川西中学校	2年	前多	夢羽
	岩見沢市立日の出小学校	4年	渡邊	奏登	札幌市立東苗穂小学校	3年	岸本	雪	札幌市立立川西中学校	3年	岡本	佳晃
	釧路町立知方学小学校	6年	木下	琉衣	札幌市立立前田小学校	1年	石岡	樹依	札幌市立平岡緑中学校	3年	宮崎	杏樹
	札幌市立ひばりが丘小学校	6年	松尾	柚希	田中学園立命館慶祥小学校	3年	石尾	春磨	札幌市立南が丘中学校	2年	中嶋	花音
	札幌市立伏見小学校	5年	三上	紗良	岩見沢市立日の出小学校	4年	鈴木	暉	札幌市立宮の丘中学校	2年	栗栖	有咲
	江別市立大麻中学校	2年	横山	紗雪	小樽市立奥沢小学校	4年	村田	龍星	千歳市立千歳中学校	2年	大日向	賢哉
					音更町立木野東小学校	4年	佐藤	颯音	苫小牧市立啓明中学校	1年	近藤	芦羽
					釧路市立鳥取西小学校	6年	山根	悠聖	苫小牧市立青翔中学校	2年	清澤	侑寿
					札幌市立立北白石小学校	5年	鈴木	こころ	苫小牧市立和光中学校	2年	奥井	杏紗
					札幌市立幌南小学校	4年	松浦	結斗	立命館慶祥中学校	1年	戸澤	茉秀子
					札幌市立札幌北小学校	6年	小笠原	えみり	帯広北高等学校	2年	増井	謙太

帯広北高等学校 3年 安達 凜
 帯広北高等学校 3年 高橋 聖也
 北海道旭川工業高等学校 1年 矢口 蒼真
 北海道石狩南高等学校 3年 二本柳和記
 北海道小樽水産高等学校 1年 松倉 匡耶
 北海道小樽水産高等学校 1年 橋本 遼人
 北海道小樽水産高等学校 1年 本間 海里
 北海道小樽水産高等学校 1年 本間 結衣
 北海道小樽水産高等学校 2年 竹中 來南
 北海道小樽未来創造高等学校 1年 池田 雄喜
 北海道釧路工業高等学校(定時制) 2年 真鍋 希来
 北海道札幌北陵高等学校 3年 三浦 佳恋
 北海道富良野高等学校 3年 目黒 夏那
 釧路大学附属との養育高等学校 1年 鎌田 真子

○応募状況
 応募全作品

六、九二一首

小学一～三年生の部 五二一首
 小学四～六年生の部 一、七五三首
 中学生の部 三、四二一首
 高校生の部 一、六九五首

【団体応募】

小学校 四三校
 中学校 五八校
 高等学校 十四校
 義務教育学校 二校
 特別支援学校 六校
 その他 一団体

団体応募一覧

旭川市立高台小学校／旭川市立豊岡小学校／旭川市立永山小学校／石狩市立浜益小学校／岩見沢市立日の出小学校／遠軽町立丸瀬布小学校／小樽市立稲穂小学校／小樽市立奥沢小学校／小樽市立高島小学校／音更町立木野東小学校／音更町立駒場小学校／音更町立柳町小学校／釧路市立愛国小学校／釧路町立知方小学校／札幌市立小野幌小学校／札幌市立札幌北小学校／札幌市立三角山小学校／札幌市立篠路小学校／札幌市立澄川南小学校／札幌市立手稲鉄北小学校／札幌市立屯田南小学校／札幌市立西野第二小学校／札幌市立ひばりが丘小学校／札幌市立藤の沢小学校／札幌市立北都小学校／更別村立更別小学校／苫小牧市立清水小学校／中富良野町立宇文小学校／名寄市立名寄西小学校／仁木町立銀山小学校／仁木町立仁木小学校／登別市立青葉小学校／函館市立あさひ小学校／函館市立千代田小学校／函館市立南茅部小学校／広尾町立広尾小学校／北斗市立上磯小学校／北斗市立谷川小学校／北海道教育大学附属札幌小学校／むかわ町立穂別小学校／湧別町立中湧別小学校／蘭越町立蘭越小学校／稚内市立稚内東小学校／旭川市立神楽中学校／旭川市立神居中学校／旭川市立啓北中学校／旭川市立広陵中学校／旭川市立忠和中学校／厚真町立厚真中学校／厚真町立厚南中学校／網走市立第三中学校／石狩市立樽川中学校／石狩市立花川南中学校／岩見沢市立上幌向中学校／岩見沢市立北村中学校／枝幸町立枝幸中学校／恵庭市立恵み野中学校／江別市立大麻中学校／江別市立大麻東中学校／小樽市立西陵中学校／帯広市立川西中学校／北見市立光西中学校／北見市立南中学校／釧路市立共栄中学校／釧路市立鳥取西中学校／釧路町立別保中学校／黒松内町立黒松内中学校／札幌市立厚別南中学校／札幌市立稲積中学校／札幌市立新川西中学校／札幌市立中央中学校／札幌市立稲穂中学校／札幌市立田北中学校／札幌市立西岡中学校／札幌市立東白石中学校／札幌市立平岡緑中学校／札幌市立平岸中学校／札幌市立福移中学校／札幌市立藤野中学校／札幌市立北都中学校／札幌市立前田中学校／札幌市立真駒内中学校／札幌市立南が丘中学校／札幌市立宮の丘中学校／砂川市立砂川中学校／札幌市立壮瞥中学校／伊達市立光陵中学校／千歳市立千歳中学校／苫小牧市立明野中学校／苫小牧市立青翔中学校／苫小牧市立凌雲中学校／苫小牧市立和光中学校／奈井江町立奈井江中学校／登別市立西陵中学校／登別市立登別中学校／東神楽町立東神楽中学校／松前町立松前中学校／室蘭市立桜蘭中学校／八雲町立熊石中学校／立命館慶祥中学校／和寒町立和寒中学校／旭川実業高等学校／帯広北高等学校／北海道旭川工業高等学校／北海道網走南ヶ丘高等学校／北海道大空高等学校／北海道小樽水産高等学校／北海道小樽未来創造高等学校／北海道釧路工業高等学校(全日制・定時制)／北海道釧路湖陵高等学校(定時制)／北海道倶知安農業高等学校／北海道札幌白石高等学校／北海道富良野高等学校／北海道夕張高等学校／酪農学園大学附属との森三愛高等学校／北見市立おんねゆ学園／斜里町立知床ウトロ学校／北海道旭川盲学校／北海道網走養護学校／北海道札幌視覚支援学校／北海道新篠津高等養護学校／北海道函館盲学校／北海道函館聾学校／国語専門塾みがく

第17回 北海道小・中・高生 短歌コンテスト 【講評】

歌人（公財）北海道文学館監事 阿知良 光治

今回の応募者は、昨年より一、四〇七名多い六、九二一名でした。応募学校数は一二三校で、特別支援学校が六校あり、学習塾からの応募もありました。第一次審査通過者は三一七名、第二次審査に残ったのは二五四名、そのうち入賞者は八八名でした。審査に当たるとは「今年も心に残る素晴らしい作品に出合えますように」と期待しながら慎重に審査に当たりました。入選以上の作品は厳しい審査を通過したいずれも優秀な作品です。これから応募する皆さんの参考になる作品だと思います。でも、そっくり真似たりはしないでください。今年も、前に他の人が応募した作品と同じ作品を応募した人がいますが、審査の対象外になります。くれぐれもご注意ください。同じテーマでも自分なりの言葉を工夫して作り、応募しましょう。

今年も昨年同様コロナに関する作品が目につきました。日常の生活での喜びや苦しみを素直に表現することで読む人の心に届くよい短歌が生まれます。最終審査に残った作品はそれぞれの学年の発達段階にふさわしいもので、身の回りの生活の様子を素直にうたわれており好感が持てました。なかでも特別賞に輝いた作品はそれぞれ工夫の跡が見られ、独自の見方・考え方が際立っており素晴らしい作品でした。

これからも、日々の暮らしの中で見たことや感じたことを、皆さんなりの言葉で飾らずに表現した新鮮な作品に出合えることを期待しています。

入選された皆さん、おめでとうございます。

※掲載は部門別に学校名の五十音順。同学校内では学年順、同学年内では氏名の五十音順。

〔各作品の講評執筆〕

特別賞／優秀賞・佳作・入選（小学生の部） 阿知良光治

優秀賞・佳作・入選（中学生・高校生の部） 吉田 理恵

《特別賞 北海道教育委員会教育長賞》

指揮棒が方向転換その一瞬また流れ出る新しい音

札幌市立新川西中学校 2年 佐藤 奈央

【講評】演奏会の様子であろう。指揮者が振っている指揮棒が、さつと別な方向へ向いたとたん新たな音が流れて来たのである。演奏会の音楽に引き込まれている様子を、指揮者の指揮棒に焦点を当てたすぐれた作品である。

《特別賞 北海道立文学館賞》

あめあがりかべにはりつくかたつむりあしたはどこへひっこすのかな

蘭越町立蘭越小学校 4年 浜田 恵伍

【講評】雨が上がり、明るくなった家の壁にカタツムリが張り付いていたのである。それを発見した時、ふっと「あしたはどこへひっこすのかな」と思ったことをそのままなおに表現したところがこの作品を新鮮なものにしている。

《特別賞 北海道歌人会賞》

僕はまだ大人の自覚は持ちきれず急な成人齢十八

北海道釧路湖陵高等学校(定時制) 3年 沖口 哉音

【講評】今までの法律では二十歳からが成人であったが、新しい法律では十八歳からを成人と認めることになった。しかし作者は十八歳になったばかりで、まだその自覚がないというのである。その戸惑いを作品にしたところが新鮮で高い評価となった。

《特別賞 北海道新聞社賞》

なつやすみことしもいたよとんぼさんおじぎしてからまたおおぞらへ

江別市立中央小学校 1年 岡本 智實

【講評】夏休みになって、初めて会ったトンボに対しての優しい思いが感じられる作品である。特に「おじぎしてからまたおおぞらへ」とトンボを擬人化し、おじぎをしてからまた大空へ飛んで行ったという表現が子供らしく初々しい作品になっている。

《優秀賞》

小学一～三年生の部

たたかうよ水でつぼうでにいちちゃんとえがおの上のにじがかかった

石狩市立緑苑台小学校 2年 石坂 友絆

【講評】兄弟で水鉄砲で遊んでいる様子を作品にしている微笑ましい。お兄ちゃんへ向かって放った水鉄砲の水に虹がかかったのである。それがお兄ちゃんの「えがおの上」と表現したところが優れている。

こわかった空をとんだり回ったり二どとのらないジェットコースター

札幌市立有明小学校 3年 武井咲八果

【講評】ジェットコースターに乗った時の体験を作品にして新鮮である。とくに怖かった様子が具体的に「とんだり回ったり」と表現し「二どとのらないジェットコースター」と強調しているところが成功している。

小学四～六年生の部

めのまえをびゅんとおるオニヤンマ夏のはじまりおしえてくれた

岩見沢市立日の出小学校 4年 長沢 惇生

【講評】最近あまり目にしなないオニヤンマを見た時の作品で、「夏のはじまりおしえてくれた」という自分なりの表現がこの作品を引き締まったものになっている。上の句の「めのまえをびゅんとおる」も子供らしい生き生きとした表現で好感を持った。

糸たらし心を無にして引きを待つかすかにひびく海風の音

札幌市立美しが丘緑小学校 5年 江口 紘生

【講評】魚釣りの体験を高学年らしい趣のある表現で、引き締まった作品になっている。特に「糸たらし心を無にして」と静かに引きを待つ様子が具体的で、さらに下の句の「かすかにひびく海風の音」とあり心が研ぎ澄まされている様子が分かる。

故事成語平方根に現在完了勉強だらけの勝負の夏

札幌市立平岡緑中学校 3年 土島 彩愛

【講評】高校受験に向けて国語、数学、英語にと懸命に勉強に励んでいる様子が伝わる。まさに勝負の夏休みなのだろう。たたみ込むように「故事成語平方根に現在完了」としてこの場合は生きていく。このまま頑張つてとエールを送りたい。

知りたいの学び始めた心理学闇に隠れたあなたの気持ち

北海道教育大学附属札幌中学校 2年 関井 悠良

【講評】授業で心理学を学んでいるのだろう。初句を「知りたいの」としてあふれる気持ちが伝わる。好きな人の本心を知りたいといったところか。「心理学」を詠み込んだことで大人びた雰囲気が出ていく。

高校生の部

コロナ禍の三年振りのお祭りであなたとの距離がぐっと縮まる

帯広北高等学校 3年 林 紗葉

【講評】高校生活はずっとコロナ禍にある。三年振りのお祭りを待ち望んでいたことだろう。祭りの機会にもっと親しくなれたらと願っていたのだ。素直な気持ちが過不足なく詠うたわれている。

いつの日か父をも越えるホタテ獲り追いかけてきた大きな背中

北海道小樽水産高等学校 2年 木下 颯

【講評】父はホタテ漁師なのだろう。自分も父を目標に同じ道を歩もうとして、いつかは父以上の漁師になろうとも思っているのだ。その気持ちを上手に三十一音にまとめている。良い親子関係をも窺うかがえる一首だ。

《佳作》

小学一～三年生の部

あつ見えた四角い頭知床で黒く光ったマッコウクジラ

札幌市立新琴似小学校 3年 青山 湊

【講評】知床の海でマッコウクジラを見た時の様子を感動的に表現している。特に、初句に「あつ見えた」と端的に伝え「四角い頭」が「黒く光った」とよく観察し、見たままを具体的な言葉で生き生きと伝えている。

なき虫でおかしうばうしすぐたたくだけどかわいいぼくのいもうと

札幌市立中央小学校 2年 橋本 作

【講評】妹の日常の様子をそのまま表現して、「なき虫でおかしうばうしすぐたたく」など否定的に言いながら一転して「だけどかわいいぼくのいもうと」と最後に締めくくったところで成功している。

学校のアサガオの花。ピンクからきれいな青へドレスをかえる

北海道教育大学附属札幌小学校 2年 板垣 珠実

【講評】学校で育てている朝顔の花をいつも観察しているのである。初めピンクだった花がきれいな青に変わった不思議さを「ドレスをかえる」ととらえたところが可愛らしくて微笑ましい。

小学四～六年生の部

ひまわりはいつも太陽見つめてるそんなに見ててまぶしくないの

岩見沢市立日の出小学校 4年 渡邊 奏登

【講評】太陽の方ばかり見ているヒマワリの気持ちになつて呼びかけているところが子供らしい表現で好感を持った。特にヒマワリに語りかけている「そんなに見ててまぶしくないの」で気持ちがストリートに伝わってくる。

楽しみは今日だけ夜空にさく花をわたあめかた手に見上げ待つ時

釧路町立知方学小学校 6年 木下 琉衣

【講評】花火大会の花火を「夜空にさく花」に喩え、今日だけ夜空に咲く花と捉えたところが斬新で高学年らしい。しかし、初句の「楽しみは」はやや一般的で平凡になるので別な言葉を工夫するとさらに良い作品になったであろう。

夏休み家族でいった京都旅行立派なお寺と汗の坂道

札幌市立ひばりが丘小学校 6年 松尾 柚希

【講評】夏休みに家族と行った京都旅行の思い出を作品に入れている。立派なお寺でも好いが具体的な寺の名前を入れるとさらに良かったのではないかと。お寺との対比として「汗の坂道」と自分に引き付けて表現したところが作者らしい言葉として特に良い評価となった。

技みがき鉄ぼう強くにぎりしめぐるんぐると世界をまわす

札幌市立伏見小学校 5年 三上 紗良

【講評】鉄棒の技を作品化して高学年らしくユニークである。練習を重ね鉄棒の技を磨いて「ぐるんぐるん」という勢いのある表現で、「世界をまわす」が特に壮大な表現で好感を持った。

中学生の部

コロナ禍で見えぬ心と見えぬ顔マスクに隠す本音とニキビ

江別市立大麻中学校 2年 横山 紗雪

【講評】コロナ禍で必須のマスクに色々な思いを込めて詠^{うた}っている。顔全体が見えないことが、心をも見えなくしているのだろう。マスクをしていることをいいことにニキビも隠すという表現にユーモアも感じる。

交差点ここで君との待ち合わせもう信号は四度目の赤

札幌市立宮の丘中学校 2年 伊藤 咲耶

【講評】好きな人との待ち合わせだろうか。交差点の信号はすでに四回も変わっているが君は現れない。赤信号は君がまだ現れない不安を象徴している。淡々と事実だけを詠ったところに惹かれた。

ピッチャーの動作を華麗に盗めてもあの子の心は盗めずにいる

市立札幌開成中等教育学校 3年 神谷 瞭介

【講評】ピッチャーの動作を盗むのも大変なことだが、それ以上にあの子の心は盗めずにいる。同じ「盗む」でも動作(技)と心で意味合いが違うものを詠み込んだところが巧みだ。

水飲み場マスク外して息を吸う初めて感じる校舎の香り

苫小牧市立明野中学校 3年 三浦 星

【講評】ずっとコロナ禍にある学生生活。学校でマスクをして過ごしているが、マスクを外した瞬時に校舎の香りを感じたのだ。一瞬の感覚を詠ったとても新鮮な歌だ。

教室に鳴り響くのは蟬時雨かき消されていく声も鼾も

北嶺中学校 1年 川村 煌

【講評】大音量の蝉の声にかき消されていくのは先生の声か。鼾^{いびき}もかき消されて居眠りをする生徒も気づかれないようだ。夏ののどかな授業風景を良く捉えた歌となった。

高校生の部

療養中打ち上げ花火に耳すますやはりこの眼で見てみたかった

旭川実業高等学校 1年 田中 優月

【講評】コロナウイルスに感染し自宅療養をしているのだろうか。耳を澄ませば打ち上げ花火の音だけが虚しく聞こえてくる。話し言葉のような歌が素直な気持ちを引き立てている。

実家には帰れず寮でぼっち飯母のごはんが早く食べたい

帯広北高等学校 3年 前山 仁

【講評】実家に帰れないのはコロナ禍で、移動制限があるからだろうか。寮の食事は個食、黙食だろうか。母の愛情がこもった手料理をお腹いっぱい味わいたい気持ちが伝わってくる。

下鴨は^{たなす}糺の森の木漏れ日に思いを馳せてめくる古本

北海道小樽水産高等学校 1年 宮腰 葵

【講評】京都の下鴨神社境内に広大な糺の森がある。毎年、古本まつりが開催されている。木漏れ日の中でワクワクしながら古本選びをしているようだ。高尚で雰囲気のある歌に仕上がった。

母牛の生を感じて立ち上がる子牛の姿うつくしきかな

北海道倶知安農業高等学校 3年 横山 颯大

【講評】高校の実習で牛の出産に立ち会ったのだろう。実際に立ち会い、農業高校生だからこそ「うつくしきかな」が生きてくる。命を愛おしむ実感だろう。作者の温かい眼差しを感じる。

《入選》

小学一～三年生の部

兄キャンプ今日はうれしい一人っ子ポテチはぜんぶあたしのものよ

北広島市立東部小学校 3年 多門 花佳

【講評】兄がキャンプに行ったので、自分は自由に過ごせるという気持ちのよく表れた作品である。普段は何かと兄と比較されたり、先取りされたりしているのであろう。「今日はずれしい一人っ子」がきっぱり言い切っていて面白い。

やってきたまえからせまるてきチームかわしてきめるぞシュートをどん

札幌市立幌北小学校 1年 田中 歩

【講評】サッカーを題材にして、臨場感のある生き生きとした表現で真にせまってくる。下の句の「かわしてきめるぞシュートをどん」も作者らしい表現で実感が良く出ている。

ふわふわで赤いハートのオムライスおいしいごはんママありがとう

札幌市立新札幌わかば小学校 3年 日野田響香

【講評】オムライスに、ケチャップで描かれたハートが新鮮で、可愛い感じがよく出ている。それも、お母さんの手作りのオムライスで「ママありがとう」が実感として伝わってくる。

はじめてのフェリーのたびで外に出る風のむこうにりしりが見えた

札幌市立日新小学校 2年 今野 泰地

【講評】初めてのフェリーの旅での様子を作品にしているが、「風のむこうに」の捉え方が個性的で良かった。「りしり」という地名も効果的であった。

ながかったやつとぬけたよこどものはうしろにまっていたおとなのは

札幌市立白楊小学校 1年 駒井 翔太

【講評】自分の歯が生え変わることを作品にするという目の付け所が面白い。子供の歯から、大人の歯に変わる様子を「やつとぬけたよこどものは」と「うしろにまっていたおとなのは」と対比しているところも良い。

ちいさくておおきいこえのおじょうさまかわいい子だなおはなのようだ

札幌市立八軒北小学校 3年 品野 由衣

【講評】小さな女の子を「おじょうさま」と表現したところが子供らしくてかわいい。その女の子を「おはな」に喩えたところがこの作品が評価されたところである。比喩を用いることでイメージが鮮明になる。

おにごっこりレーせんしゅのえなちゃんはやいはいよつかまりません

札幌市立東苗穂小学校 3年 岸本 雪

【講評】運動会のりレーの選手だった「えなちゃん」は足が速いので、鬼ごっこでも捕まらないという、なんとも子供らしい捉え方で好感を持った。下の句の表現も小学生らしさが出ており微笑ましい作品である。

ひつじの毛ふとんにしたら気持ちいいなついたひつじ連れて帰ろう

札幌市立ひばりが丘小学校 3年 寺林 伶

【講評】羊ヶ丘の羊なのであろうか。身近で見た羊を手で触ってみたのであろう。フワフワして「ふとんにしたら気持ちいい」という発想が面白い。なついてきたので連れて帰りたいと思ったのである。素直な気持ちを表現していて好ましい。

まよなかにないとことのつたハンモックつきのブランコゆれてるみたい

札幌市立前田小学校 1年 石岡 樹依

【講評】キャンプに行った時の情景なのであろう。いとこの乗ったハンモックが揺れているのを見ての作品だが「つたのブランコ」と表現したところが素晴らしい。作者の感性を感じる作品である。

きれいだなこぼれた絵の具空に溶け帰ろうまたね夕焼け小焼け

田中学園立命館慶祥小学校 3年 石尾 春磨

【講評】夕焼けの空の色を絵の具に喩えたところが、この作品の評価された点である。その絵の具が空にとけた様子を「きれいだな」と初句に置き、下の句を「帰ろうまたね夕焼け小焼け」とリズムミカルな表現が効果的である。

ミンミンジーきこえてきたよせみの声夏がもうすぐやってきますね

仁木町立銀山小学校 3年 田中菜七美

【講評】蝉の声は夏が近づく合図であると感じ、端的に「もうすぐやってきますね」と、語りかけるような言葉が心地よい。初句の蝉の鳴き声も工夫があり効果的である。

小学四～六年生の部

学校のもの近くのさくらの木ぼくをむかえて花まいおりる

岩見沢市立日の出小学校 4年 鈴木 暉

【講評】登校中、学校の門に近づくと満開の桜が散って自分を迎えてくれていると感じたのである。実際に見たり感じたことをそのまま端的に表現して好感が持てる。

見上げると太陽みたいな濃い黄色どこまでびるぼくのひまわり

小樽市立奥沢小学校 4年 村田 龍星

【講評】自分の背丈よりも高いヒマワリを見上げている。そのヒマワリに「どこまでのびる」と声をかけている様子が好ましい。「ぼくのひまわり」と言っているので、実際に種を蒔いて育てたヒマワリならなおさらである。

さつぼろのホテルにとまるかぞくでねちかてつにのるはじめての夏

音更町立木野東小学校 4年 佐藤 颯音

【講評】夏休みに家族で札幌に旅行した経験を作品化している。初めて地下鉄に乗った感動を素直に表現して好感が持てる。上の句の「さつぼろのホテルにとまるかぞくでね」にワクワクしている気持ちがよく表れている。

ひらひらと昼寝姿にまとい降る遅咲きの桜別保公園

釧路市立鳥取西小学校 6年 山根 悠聖

【講評】昼寝をしている人の上に舞い散る桜を見ての作品で、高学年らしく「桜」に「はな」とルビを振った点もよい。釧路町にある「別保公園」という公園名で結んだ体言止めが効いていて、実際にその場にいる雰囲気がよく出ている。

カンカンと馬のひづめが鳴りひびく同じリズムで背中もゆれる

札幌市立北白石小学校 5年 鈴木こころ

【講評】馬に乗った体験を作品化している。ひづめの音と「同じリズムで背中もゆれる」と高学年らしく、具体的に生き生きと表現されていて好感を持った。

何起こる二つの物質かけあわせわくわくしながら待つこの瞬間

札幌市立幌南小学校 4年 松浦 結斗

【講評】科学の実験の様子なのであるか。二つの物質を混ぜ合わせるとどうなるのか「わくわくしながら」と好奇心を前面に出し、さらに下の句の体言止めも効果的であった。

夏休み友だちよんでお祭りへおめんをつけて屋台へむかう

札幌市立札幌北小学校 6年 小笠原えみり

【講評】夏休みにみんなと、お祭りに行った様子を作品にしている。「おめんをつけて」がこの作品の見どころで、みんなで屋台へ行く様子が具体的に楽しく表現されている。

思い出は修学旅行自主研修大人の気分で小樽をたんけん

札幌市立札幌北小学校 6年 部田 梨華

【講評】修学旅行の思い出を作品にしたもので、小樽の街での自主研修で「大人の気分で小樽をたんけん」と自分に引き付けていることで成功している。

分かれ目は小数点のつけ忘れ競った友に一点負ける

札幌市立澄川南小学校 6年 伊藤 聡美

【講評】算数のテストで小数点をつけ忘れたことで、友達に一点負けた悔しさを作品にしてユニークである。この友達とは成績を競い合う仲なのである。高学年らしいしっかりとした作品になっている。

もくもくと雨降る雲がやってくる高校野球は9回の裏

札幌市立西野第二小学校 6年 山内 楷斗

【講評】高校野球の試合はすでに九回の裏、もうすぐ終わりなのに雲が広がり雨になりそうだと心配している作品で、緊張感が伝わってくる。最後の「9回の裏」の体言止めが効いている。

赤ちゃんの弟一緒にテレビみて気づいてみると一緒にポーズ

札幌市立ひばりが丘小学校 6年 中田 陽色

【講評】まだ赤ちゃんの弟の様子をよく観察しているユニークな作品である。一緒にテレビを見ていると同じポーズをしたというのである。ちよつとした気づきを作品にしたところが評価された。

「お母さん」かべの向こうに呼びかける近くて遠いかくり生活

札幌市立伏古小学校 5年 吉原 悠吾

【講評】母親がコロナに感染したのであるうか。隣の部屋に隔離されたのである。壁を隔てた隣の部屋にいる母に呼びかけるが、会うことの出来ないもどかしさを「近くて遠い」と表現し、よくまとめている。

本を手に葉ずれの音を聞きながら早くめくれと窓打つ風よ

札幌市立元町小学校 6年 和久井莉子

【講評】窓の外の葉^は擦^ずれの音を聞きながら、読書をしているという、なかなかお洒落な作品である。下の句の「早くめくれと窓打つ風よ」と風の擬人化も効果的である。

ほんおどりやぐらの下でみなおどる姉の浴衣がきれいに見える

苫小牧市立清水小学校 4年 川崎 嵩仁

【講評】夏の盆踊りの情景をよく捉えている。多くの踊り手の中でも、「姉の浴衣がきれいに見える」と姉の浴衣に焦点を当てたことで、この作品が評価されたのである。

落ち葉まう寒さの朝にあつ着して友の家まで手紙を置きに

中標津町立中標津東小学校 4年 横山 にご

【講評】何の手紙かわからないが、「落ち葉まう寒さの朝」と上の句がしつかりしていて良く出来ている。寒いので身支度をして出かける様子が良くわかり、丁寧な作品になっている。

緑色木のトンネルくぐったらぱっとひらける黄色の田んぼ

広尾町立広尾小学校 5年 藤原 好花

【講評】緑色の木と黄色の田んぼの対比がこの作品の目の付け所である。実際に体験したことを作品化していることが明確で、「ぱっとひらける」に現実感がある。季節感が伝わってくる作品である。

桜の木春は桃色夏緑秋は赤色季節の時計

北斗市立上磯小学校 5年 佐藤 暁

【講評】桜の木が季節によつて姿を変える様子を丁寧によんでいる。その変化する様子を「季節の時計」と捉えたところが特に優れている。変化する色をリズムカルに並べたのも効果的であった。

大人たち子どもと海で大はしゃぎいつまでたっても海は友だち

北斗市立谷川小学校 4年 神 壺屋

【講評】夏の海で遊ぶ大人や子供をよく見ている。みんなではしゃいでいる様子が眼に浮かぶようである。下の句の「いつまでたっても海は友だち」が子供らしくよくまとめている。

中学生の部

「おはよう」と言えずに見やるあなたの背中明日は言おうと心に決める

厚真町立厚南中学校 2年 鈴木 ゆら

【講評】朝の挨拶はあなたと話す絶好のチャンスだが、いつもタイミング良くできるとは限らない。相手の背中を見つつ明日のことを考えている様子が何とも微笑ましい。

「また明日。」交わす言葉は何気なく絆の階段また一つ登る

石狩市立樽川中学校 2年 福島 美月

【講評】「交わす言葉は何気なく」とも挨拶を交わし絆は深まっていく。今日も仲良く過ごせたこと、楽しかったことが伝わる。「絆の階段」が効果的である。

明日へのエンジン吹かす体験を未来へ生かす整備士の夢

恵庭市立恵み野中学校 2年 西村 日向

【講評】整備士への夢を見据えている。もうすでに整備士の仕事の体験をしたようだ。「明日へのエンジン」は、整備士として扱うエンジンにもかかっていて巧みだ。

から回る一方通行恋心いつか絶対夢中にさせる

帯広市立川西中学校 2年 前多 夢羽

【講評】「いつか絶対夢中にさせる」の意気込みに魅かれた。あの手この手で相手を夢中にさせたい。誰もが通る恋の道を何の衒くらいもなく表現している素直さが良い。

月並みに君との「おはよう」さりげなくポケットで手が虚空を握る

札幌光星中学校 3年 岡本 佳晃

【講評】君に「おはよう」と言えて、ポケットの中でガッツポーズをするように手を握りしめたのではないか。抑えた喜びの表現が生きている。「虚空」が斬新である。

曾祖父の戦争体験語り継ぎ祖母・母・僕と歴史を紡ぐ

札幌市立定山溪中学校 1年 伝法谷篤人

【講評】戦争の記憶のある世代が減ってきている中、詠い継がなければならないテーマだ。血筋から戦争を自分に引き寄せて詠っている姿勢が頼もしく強く惹かれた。

積丹の海は底まで透き通り夏の日差しに水面は光る

札幌市立西岡中学校 1年 奥田 佑香

【講評】平明な言葉遣いで、積丹ブルーを見事に表現している。写実に徹していて爽快感がある。読み手を一気に美しい積丹へ誘ってくれる力のある歌だ。

友達が僕と話すと見上げてただけれど今は僕がその番

札幌市立平岡緑中学校 3年 鮎原 颯佑

【講評】友達はいつの間にか自分の背丈を超えてしまった。ちょっと複雑で不思議な気持ちでいるのだろう。背丈とという言葉を使わずに状況を表現できているところが巧みだ。

黄昏に染まる浴衣の君探す追いかける僕は青のスニーカー

札幌市立平岡緑中学校 3年 宮崎 杏樹

【講評】色が美しく詠われている。黄昏色、青、そして浴衣の色や柄は読み手に託すことができる。淡い思いを連想させる趣のある歌に仕上がっている。

友達になろうと君の一言が嬉しかった転校初日

札幌市立南が丘中学校 2年 中嶋 花音

【講評】転校初日は不安で一杯だ。「君の一言」がどんなに心強かったことか。素直な気持ちが表現されている。今もなお、良い友人関係が続いていることがわかる歌だ。

ふと思う「日常」という毎日が真の幸せなんじゃないかと

札幌市立宮の丘中学校 2年 栗栖 有咲

【講評】作者にとって小学生から続いているコロナ禍の生活。多くの我慢が強いられている。そんな中、コロナ以前の日常を「幸せ」と実感したのだ。語順や話し言葉が生きている。

父帰宅二年も待った再会に心躍りし三月の夜

千歳市立千歳中学校 2年 大日向賢哉

【講評】父は単身赴任をしているようだ。コロナ禍で父に会えずに2年が経過した。たくましく成長した作者を父は頼もしく思ったことだろう。再会の時を具体的に詠み込んでいて良い。

気がつけば僕より母が小さくて守ってあげると決めた夏の日

苫小牧市立啓明中学校 1年 近藤 芦羽

【講評】まだ中学一年生だが、作者はすでに母親の背丈を超えたようだ。心身ともにたくましく成長した様子がわかる。真っ直ぐな気持ちが初々しく、良い親子関係も窺える。

いつもより少し大きな月を見る君と見つけた小さな幸せ

苫小牧市立青翔中学校 2年 清澤 侑寿

【講評】月はスーパームーンか。月は人をロマンチックな気分させる。満月なら尚更だ。君と見上げたのなら殊更だ。「少し」や「小さな」と控えめな表現だが、実はとても「幸せ」なのではと思わせる歌だ。

あと二十日全道かけたコンクール夏の風吹く青春の汗

苫小牧市立和光中学校 2年 奥井 杏紗

【講評】合唱、あるいは吹奏楽のコンクールか。全道大会まで、あと二十日間しかないのだ。みんなで力を合わせ、青春をかけて練習をしている。季節が夏であるのが、歌の雰囲気を増している。

リモートの授業にマスク外す友画面越しでも近く感じる

立命館慶祥中学校 1年 戸澤茉秀子

【講評】リモート授業で互いにマスクを外して出席している。離れているが、素顔が見られて近くに感じるのだ。素直な実感だろう。特殊な場面と気持ちを三十一音に良くまとめられている。

高校生の部

将来の不安や恐れ振り払い 一步踏み出す勇気が欲しい

帯広北高等学校 2年 増井 謙太

【講評】今まさに感じている気持ちを等身大の言葉で過不足なく表現している。思い悩む年代であるが、これだけの歌を詠める作者なら自ら考え、一步も二歩も踏み出せる。

消しカスとルーズリーフがたまつてく受験に向けて止めるなペンを

帯広北高等学校 3年 安達 滉

【講評】受験に向けて自分を叱咤激励している。「消しカス」まで詠い込んでいてユーモラスだ。懸命に勉強をしているからこそその「消しカス」だ。「止めるなペンを」が効果的。

実家から離れて気づく母の味 玉子焼きは甘いのが好き。

帯広北高等学校 3年 高橋 聖也

【講評】今は寮か下宿生活なのだろうか。実家を離れて母の玉子焼きを懐かしんでいる。具体的に玉子焼きと味を詠い込んで歌を生き生きとさせている。母の愛情は大きい。

合宿で幾度と解いた難問のテストに出るや頬ゆるむ我

北海高等学校 1年 矢口 蒼真

【講評】懸命に勉強してきたのだ。思わずニヤリとしてから難問を解いた。実感があり面白味のある歌にも仕上がった。1年生から真摯に合宿に参加する作者にエールを送りたい。

カレンダーめくる度減る一ページその度増える君の記憶が

北海道旭川工業高等学校 3年 二本柳和記

【講評】「減る」「増える」の対比が効果的で、着眼点が新鮮な歌だ。月日を重ねて君との思い出が増えていくのだから。具体的な数詞も歌を印象付けている。

弾けても弾け切らない胸の内華が不在の花火大会

北海道石狩南高等学校 1年 松倉 匡耶

【講評】暗喩的な歌だ。花火が弾けて気持ちも弾けるのだけれど、華(＝君)が不在の花火大会では弾け切ることができないという複雑な気持ちを表わしたのではないか。巧みな歌である。

我家からきれいに見える小樽港若竹丸も係留中だ

北海道小樽水産高等学校 1年 橋本 遼人

【講評】坂の上の自宅から小樽港を見放(みま)くり、通う高校の実習船「若竹丸」まで見えるという。船に乗りハワイ沖へ実習に行く日を楽しみにしているのだ。誇らしさも感じる歌である。

銭函の日差しまぶしい七月の駅に広がる朝の海の香

北海道小樽水産高等学校 1年 本間 海里

【講評】写実的ですがすがしい一首だ。読み手をその場へ誘ってくれる。リズムが良く暗唱にもふさわしい歌に仕上がった。具体的に地名を詠み込んだこと、「の」の多用が効果的である。

友達と手持ち花火が消えるまで空に絵文字を魔法のように

北海道小樽水産高等学校 1年 本間 結衣

【講評】短い夏を惜しむように花火をしている。どちらが長く火をつけていられるかを競っているのかもしれない。絵文字はハートかダイヤか。一瞬を良く捉えて一首にまとめている。

まっしろの実習服に身をつつみ魚さばいて缶づめづくり

北海道小樽水産高等学校 2年 竹中 來南

【講評】実体験が生き生きと伝わってくる。魚をさばき、缶詰にして蓋をする工程までが実習なのだろう。「まっしろの実習服」が初々しい。事実だけを詠っているが楽しさも充分に伝わる。

雨の中傘も差さずに駆け抜ける急な坂道君と一緒に

北海道小樽未来創造高等学校 1年 池田 雄喜

【講評】作者の高校は急な坂の上にある。雨降る下校時に傘もなく、一気に坂を駆け下りたのではないか。君と一緒に雨に濡れても気にならない。むしろ楽しんでいるのかも。青春そのままの歌だ。

夏やすみ花火大会今年こそマスク外して皆まで見たい

北海道釧路工業高等学校(定時制) 2年 真鍋 希来

【講評】口語体で素直な気持ちで詠われている。花火大会は夏のメインイベントで友達との仲を深める絶好のチャンスだ。そんな思いもこの歌から伝わる。

奪われた青春時代身に染みた普通がどれだけ幸せなことか

北海道札幌北陵高等学校 3年 三浦 佳恋

【講評】高校生活を楽しみにしていたものずつとコロナ禍にあった。すでに3年生となり、回顧すると思い出は少なかったのだ。せめて普通の生活をしたかった思いがそのまま表現された。

マスクなく画面越しに話する君の笑顔につられて笑う

北海道富良野高等学校 3年 目黒 夏那

【講評】高校生活はコロナ禍の中にあった。画面越しでは、君の笑顔が見られるのだ。そしてたくさん話すことができる。実体験が飾り気のない素直な言葉で詠われている。

暑き日に墓参り行きセミ止まり祖父が来るとみんなで笑う

酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校 1年 鎌田 真子

【講評】家族でお盆の墓参りをした時の歌のようだ。お墓にじっと止まっている一匹のセミが祖父の化身に思えたの
だろう。みんなで笑い合い、明るいお墓参りとなった。